

うわじま うしおに 牛鬼

JAN. 2021
No.42

「姉妹病院 大崎市民病院との人事交流」

看護部



宇和島市と宮城県大崎市は、宇和島藩初代藩主伊達秀宗公と岩出山初代領主伊達宗泰公が兄弟という歴史的に深い縁のもと、平成11年に姉妹都市の盟約を締結しました。

平成30年には、医療分野においても災害時の協力や情報交換、職員の人事交流などを目的に病院事業で姉妹協定を締結しています。今年度の人事交流事業として、大崎市から助産師の男澤歩惟さん（右から2番目）が派遣され、宇和島市からは看護師の木下恵太さん（右端）、林正徳さん（左端）、太田志織さん（左から2番目）を派遣しました。人事交流の派遣レポートを2面に掲載しています。

※双子の写真は、ご両親の許可を得て掲載しています。

病院事業管理者

市川 幹郎



明けましておめでとうございます。

今年は市民の皆様にはこれまでと違った新年をお迎えかと思います。例年なら久しぶりに会ったご家族、ご友人と楽しいひとときを過ごすはずでしたが、スマホや電話での会話しかなわず、さみしい新年をお迎えの方も多いかと存じます。

昨年1月に中国武漢で流行した肺炎が新型コロナウイルス感染症として全世界に広がり、愛媛県でも多数の感染者が報告されています。病院局の職員は公立医療機関としてその対応に当たっていますが、医療者としての責任から職務を遂行している職員に衷心より敬意を表します。

また、市民の皆様には感染防止にご協力を頂き感謝致しますと共に、面会の制限や体温測定等何かとご不便をおかけ致していますが、ご理解、ご協力を願い申し上げます。

これからは地域で完結する医療の時代です。そのためにはそれぞれの医療機関が担当する医療を責任を持って果たすことが求められます。宇和島市病院局の使命は他の医療機関と連携し地域の医療を守る一翼を担うことです。

今回の新型コロナウイルス感染症で社会のあり方が変わると思われます。医療も例外ではなく、地域の医療を守るために時代に対応しなければなりません。

市民の皆様にはこれまで以上にご理解とご協力を願い申し上げます。

市立宇和島病院院長

梶原 伸介



明けましておめでとうございます。

令和2年は思いも掛けないウィルスの襲来に、日本中、世界中が振り回された1年だったと思います。当院は感染症指定医療機関ですので、患者さまの受け入れ、治療等に神経をすり減らす時期もあり、今だにウィルスの影に怯えている状態です。しかし歴史を振り返れば、人類は生命の誕生以来、未知の感染症との戦いの連続であり、それを乗り越えて今の人類が存在しているのです。我々はウィルス以外にもたくさんの救わなければ、助けなければならない命があります。むしろ今の時点ではそちらの方が圧倒的に多い状況です。最近、もう少し早く病院を受診し、検査を受けていたらと思われる事例を我々自身でも経験しております。病院を怖がり、受診控えで病状の悪化をしないようにしていただきたいと思います。

当院は昨年4月1日より地域医療支援病院を取得し、四国西南地域での使命を果たさなければと考えていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で評価が出来ず、外来患者数、入院患者数が減少しています。今後のことは誰にも分かりませんが、出来ることは少しづつでも行き、地道に積み上げたいと思っています。ご支援のほどよろしくお願い致します。



発行／市立宇和島病院広報委員会
〒798-8510 愛媛県宇和島市御殿町1番1号

TEL 0895-25-1111 FAX 0895-25-5334
<https://www.city.uwajima-mh.jp/>



シリーズ | 看護部だより 姉妹病院 大崎市民病院との人事交流

宇和島市と宮城県大崎市の人事交流事業の一環として、宇和島市の助産師不足解消のため、姉妹病院である大崎市民病院から派遣され、今年度7月から市立宇和島病院の産婦人科病棟で働いています。

市立宇和島病院は、大崎市民病院と比べると分娩件数が3分の1ほどで、赤ちゃんの産声が少なく寂しく思う日もありますが、その分お母さんと赤ちゃんには手厚く育児支援が出来ていると思います。また、大崎市民病院は産科単科なのに対し、市立宇和島病院は産科の他に婦人科と乳腺外科の混合病棟であるため、普段関わることできない周術期看護や化学療法、終末期ケアを学ぶ機会にもなっています。

今まで愛媛はもちろん四国には来たことがなかったので、新型コロナウイルス感染症が落ち着いていたころには道後温泉や小豆島などの観光もさせてもらいました。コロナ禍であり出かけるのも難しくなりましたが、四国にはまだまだ行ってみたい観光スポットがたくさんあるので早く終息することを願うばかりです。

初めは慣れない環境に戸惑うこともありましたが、職場の方はじめ宇和島の皆さんには本当に良くして頂いて、なんとか半年を過ごすことができました。残り3か月、与えてもらった機会を大切に学びの多い日々にするとともに、少しでも愛媛を堪能できればと思います。



大崎市民病院から派遣
助産師 男澤 歩惟さん

大崎市民病院派遣レポート



看護主任 木下 恵太

今回、大崎市民病院との人事交流のため、先陣を切って手術看護師として出向させて頂きました。人生初の単身赴任、人生初の東北での生活でしたが、大崎市民病院の方々に、とても暖かく受入れて頂き、あっという間に2ヶ月間が過ぎてしまいました。大崎市民病院は当院と同様に地域の要となる病院であり、しかもその規模は当院よりも大きいです。つまり、大変多忙な病院ですが、スタッフ1人1人が病院の使命を理解しており、患者さまのために最善を尽くす意識が根付いている事に感銘を受けました。多くの事を学ばせて頂いた2ヶ月間は私の人生の中でも大きな糧になったと思っています。興味がある方は是非とも、美食・美酒の宮城県大崎市に行ってみてはどうでしょうか。



看護師 林 正徳

「最高でした」私が2か月間の人事交流を終え感想を聞かれた時の言葉です。大崎市民病院では救急患者対応を中心に救急医、スタッフと協力し救急看護を展開してきました。当院とは救急医が在籍しているという違いはありましたが、患者さまに提供する医療や看護に大差ではなく、職種間で協力して患者対応を行う重要性を改めて学ぶ事ができました。救急医療の場ではC指揮命令S安全CコミュニケーションA評価を念頭に置きPDCA（計画、行動、確認、評価）を繰り返し実施する事で患者さんの命、QOLを守る事に繋がります。その為には協力し合える環境作りが肝要です。今回の交流経験を活かし、当院でも「最高の職場」を目指し尽力したいと思います。



看護師 太田 志織

院内3人目として人事交流に参加し、血液内科で看護業務や処置見学（造血幹細胞移植、化学療法、臍注）を行いながら化学療法室などの施設見学、委員会や院内研修参加など多彩な経験をしました。研修中院内どこにいても皆様優しく、親切に暖かく接してくださり、素敵な病院だと感じました。私は今の病院しか勤務経験がなく、自分の病院だけの知識という視野の狭さに気付くことも出来ました。この経験を活かせるよう向上心を持ち、素敵な病院と思っていただけるように一職員として接遇にも注意し患者さまだけでなく職員間でも人との繋がりを大事にできる看護師でありたいと思います。また、東北、四国とどんなに遠く離れていても患者さまに対してより良い看護を行なっていきたいという熱い気持ちは同じだと思います。この貴重な交流、絆をこれからも繋げていけたら素晴らしいなと思います。

病院正面玄関及び周辺の樹木をライトアップ

11月14日、世界糖尿病デーのシンボルであるブルーサークルにちなみ、病院正面玄関をライトアップしました。

また、病院職員OB、OGの方より、「新型コロナウイルス感染症に立ち向かう病院への感謝と激励の意を届けたい」と寄附をいただいたため、寄附の一部より、災害時にも使用できる投光器を購入し、正面玄関及び周辺の樹木を新たにライトアップしました。



へき地医療貢献者表彰を受賞して

產婦人科主任科長兼手術部長 中橋 德文

この度は令和二年度へき医療貢献者表彰受賞にあずかり、大変光栄に思いますとともに、推薦いただきました関係者、今までの診療を支えてくださった皆様に深謝致します。

昭和56年愛媛大学卒業後、産婦人科教室に入局。初期研修終了後、一時大学勤務した以外はずっと南予の病院に勤務しました。最初の赴任は八幡浜市立総合病院でした。産婦人科は2人体制で、分娩当番は宅直ですが隔日。緊急手術は二人で行うのでほぼ四六時中病院近辺に居ました。携帯電話がなかった時代なのでポケットベルが鳴ると今は無き公衆電話を懸命に探したのを思い出します。部長の小泉先生にほぼすべての症例で（分娩は500/年位、手術は200/年位）御指導いただけたのは幸運でした。病院にはビリヤード台や麻雀台がおいてあり、“麻雀していると病院に医者が常駐しているのでいいんだ”と仰る先生方も居てとても和やかな雰囲気でした。その後町立野村病院に赴任しましたが、横田院長先生は外科医で一人だったため、虫垂炎やヘルニア手術を執刀させていただいた事が懐かしく思い出されます。



岡原市長 中橋産婦人科主任科長

大学に帰った後、平成4年より県立南宇和病院、平成6年より町立吉田総合病院へ赴任し一人医長勤務、平成9年より現市立宇和島病院にて勤務しています。平成の初め頃は、南予地区の分娩取り扱い公立病院は6施設で、一人医長での診療を行っている病院も複数ありましたが、令和2年現在は南予地区の公的分娩取り扱い施設は当院のみです（平成18年地域周産期母子医療センターに指定）。昨今出生数減少が叫ばれていますが、宇和島圏域では平成13年1121人であったのが、令和元年には522人と半数以下となっています。

当院での分娩数も赴任当初は400～500/年ほどあったのですが、令和元年には203と著減し、令和2年には160位の予想となっています。新生児室に赤ちゃんが沢山居て、助産師・看護師が忙しい忙しいと文句？言いながら働いていた頃が懐かしく思われます（またそんな日が来ますように）。

当院では他科の先生方に支えて頂き診療に対する不自由を感じませんでしたので、当院がへき地の病院と思ったことはありませんでした。今後も診療科間でのいいコミュニケーションが続けて行ける素敵な病院でいられます様に。

 シリーズ各科紹介 | 薬局

薬局長 竹内 信人

薬局では、調剤・医薬品の供給、適切な医薬品情報の提供などの薬剤師業務を薬剤師15名、事務員1名、パート6名（業務補助、1名は治験事務業務兼務）で、調剤・製剤業務をはじめ、抗がん薬調製、薬剤管理指導業務、医薬品情報業務、TDM（解析）、治験事務局運営と多岐に渡って業務を行っています。

24時間、365日薬剤師は病院内に常駐し、入院患者さんのみならず、救急外来の患者さんにも対応をしています。専門・認定薬剤師を取得している薬剤師も所属しており、NST、ICT、緩和ケア、糖尿病などチーム医療にも参加し、各々が薬の専門家として“力”を発揮しています。

日々更新される医薬品情報に対応すべく、インターネットを活用した薬剤師同士の情報、知識の共有・統一を行っています。調剤時には直近の臨床検査値を確認しながら、患者さん個々に適切な薬が適切な量で処方されているか確認しながら調剤を行っています。同時に医師が処方した薬が間違いなく患者さんのところに届くように、ヒューマンエラーを極力無くした調剤・鑑査を心掛けています。

病棟の服薬指導や退院指導を担当している薬剤師はインターネット端末を持って病棟に出向き、患者さんをはじめ、医師・看護師からの医薬品関連の質問・問題等に対応しています。退院時には薬剤師が必ず指導を行い、退院後の服薬に関する不安を取り除くようにしています。

最後に我々薬剤師に求められている“力”を十分に発揮するためには、まだまだ人力が足りていませんか、病院と一緒に新しい“力”を探しつつ、“No Negative Comments”を合い言葉に力を合わせて“今自分たちができること”をしっかりとやっていきたいと思います。

“No Negative Comments”を合い言葉に!



前列左から福本駒美、森完二、薬局長 竹内信人、副薬局長 藤田聖人、清家仁
中列左から永松彩子、都能美紀、木村麻奈加、氏家ありえ、大西由利子、兵頭和代
後列左から福井由佳、西川大亮、望月陽、金谷涼平、大野美和、濱崎芽衣、山本悠子、山村健瑠

診察の際、主治医の先生から採血した検査値の結果の説明を受けています。その結果をもとに「病気が良くなっているか」「医薬品の効果がきちんと出てるか」「副作用が出てないか」など色々な面から治療効果の確認をしています。

我々薬剤師も年齢や性別、腎臓や肝臓などの検査値によって、飲む量を減らしたり時には中止をしないといけないため、検査値を確認しながら、適切な量が処方されているか確認をしています。

昨年三月三十一日より当院が発行している院外処方せんにも検査値を印字しています。検査値を印字することで保険調剤薬局の薬剤師にも検査値を確認してもらい適切な量で医薬品が処方されるいるか確認をして頂いています。

より良い薬物療法を行う上で必要な項目です。で、ご理解いただきますようお願いいたします。



四国アルフレッサ株式会社様による福祉車両寄贈

令和2年10月7日、四国アルフレッサ株式会社様から、宇和島市に対して福祉車両をご寄贈いただきました。社会貢献活動の一環として、平成27年から地域への社会貢献事業を実施されており、会社の前身が宇和島市にあったことから、今回、ご寄贈いただきました。福祉車両は、介護老人保健施設ふれあい荘に配備し、ご利用者さまの搬送などに活用させていただきます。

四国アルフレッサ株式会社様の心温まるご支援に報いるべく、更なる努力を尽くしてまいります。誠にありがとうございました。



小椋代表取締役社長 岡原市長

スマートフォン診察呼出アプリ(コンシェルジュ)の運用開始

スマートフォンを利用した診察呼出アプリの運用を令和2年11月24日から開始しました。

当院では、診察待ち時間の有効活用が大きな課題となっていましたが、診療待ち状況の確認がスマートフォンで可能になります。

ご自身のスマートフォンにアプリを入れていただくだけで、予約状況が確認できるほか、診察の順番が近づくとスマートフォンに通知が届くなど、外来通院の様々な場面において、利便性が大幅に向上します。また、外来の混雑や待合スペースの「3密」を回避することができ、コロナ等の感染予防策としても有効であると考えています。

アプリのダウンロードは、スマートフォンで右記のQRコードを読み取ってください。読み取れない方は、Google PlayまたはApple Storeで「LifeMark コンシェルジュ」と検索してください。

医事課 課長補佐 中 一



🍴 ビタミンCを旬の野菜でとろう! ↗

ブロッコリーと大根のエビ入り薄くずあん

材料(4人分)



ブロッコリー	200g
大根	250g
にんじん	80g
むきエビ	60g
だし	500mL
みりん	大さじ1
a	しょうゆ 小さじ1
塩	小さじ1/2
かたくり粉	小さじ2
水	小さじ4
おろしそうが	1かけ分

ビタミンCは抗ストレス作用、発がん物質の生成抑制などの生理作用があります。
11月～3月頃が旬の時期であるブロッコリーにはビタミンCが豊富に含まれています。

果物にも多く含まれますが、野菜からの摂取は糖分が少なくてすみ安心して多くの量を食べられるので、様々な料理に使ってみてください。

【1人分の栄養量】エネルギー:67kcal たんぱく質:5.6g 塩分相当量:1.1g

- ①ブロッコリーは食べやすい大きさに切ってかために茹でる。
- ②大根は1.5cm角に切り、にんじんは5mm厚さの輪切りにして小ぶりの梅型で抜くか角切りにする。
- ③エビは背わたを除いて大根と同じくらいの大きさに切る。
- ④なべにだしを温めて大根を入れ、煮立ったら弱火にして5～6分煮る。にんじんを加えてやわらかく煮、aで調味し、①と③を加え、エビに火が通ったら水ときかたくり粉でとろみをつける。
- ⑤煮汁ごと器に盛り、おろしそうがをのせる。

病院理念

患者さま中心の医療を基本として

- 一、信頼される病院
- 二、思いやりのある病院
- 三、やすらぎのある病院
- 四、進化しつづける病院
- 五、地域になくてはならない病院をつくります。

信頼

思いやり 患者さま やすらぎ
中心の医療を
基本として

進化 地域

基本方針

1. いつでも、どんな病気にも、高度医療を提供する病院をめざします。
2. 患者さまの権利を尊重し、愛情と対話をもってあたたかい医療を提供する病院をめざします。
3. 快適な医療環境をととのえ、明るくうるおいのある病院をめざします。
4. 高い技術を持ち、人間性豊かな医療人の育成につとめる病院をめざします。
5. 医療・保健・福祉との連携を深め、地域で完結する医療に貢献する病院をめざします。

患者さまの権利

1. 良質で適切な医療を平等に受けることができます。
2. 自分の状態や医療行為について十分理解できるまで説明を受けることができます。
3. 医療者から十分理解できるまで説明を受けた上で、自由意志に基づき医療行為を選択あるいは断ることができます。
4. 主治医より受けた診断、治療方針について他の専門家に意見を求める場合は、セカンドオピニオンを利用することができます。
5. 自分の医療に関する記録などの情報について、開示を求めるすることができます。
6. 個人情報及びプライバシーは保護され、いかなる状況においても人間としての尊厳が守られます。
7. 患者さまの診療・治療について当院の教育・研究にご協力をお願いする場合がありますが、これを断ることができます。
8. 病院に対し種々の提言をすることができます。